

2050年にむけての住まいづくり

NPO法人高齢社会の住まいをつくる会
理事長／一級建築士

吉田 紗栄子

2050年といえは、38年後、28歳の人が65歳の高齢者になる。今、住宅を新築するのは、30代40代が主流であることを考えると、50年には高齢者になっている世代だ。人口問題研究所の予測によると、50年の高齢化率は約36%と推定されている。実に2・8人に1人が65歳以上の高齢者である。ローンを払い終えたときには既に高齢者の仲間入り。その時に自分や家族がどんな状況になっているかを考えて家を選んだり建てたりしている人が一体どれくらいいるのだろうか。

住み続けるために

多くの人は、歳をとっても自分の家に住み続けたいと思っている。歳をとれば身体能力が衰えていくのは避けられないことだが、それを見越した仕掛けや備えをしておくことで、より長くマイホームに住み続けることができる。

家はそこに住む人々に大きな影響を及ぼす。住む人を元気にする家や、家族を仲良くさせたりする家もある。逆に、病気を引き起こしたり、非行を助長するような家もある。「超高齢社会」では、住まいの持つ力をうまく利用し、歳をとっても住み続けることができるような住まいを最初からつくるのが非常に大切である。バリアフリー

対応力のあつた住まい

生活スタイルや身体能力の変化に応じて、柔軟に対応できる住まいづくり、というのが最初のポイント。例えば、①階段の上り下りがきつくなっても暮らしやすいように、寝室と水回り(トイレや浴室)・LDKは同じフロアにまとめて配置する。それが難しい場合は後からエレベーター

包容力のあつた住まい

つえや車いすでも快適に住める家は、友人や親戚などがいつでも来られる家だとも言える。それは社会からの孤立を防ぐ。自分が歳をとっていくと同時に、友人や知人も歳をとっていくのだ。たとえ自分が健康でい続けられていても、友人・知人が障害を持つようになると、可能性がなくなる。だれでも来やすい家を、「包容力のある家」と表現できる。

支持力のあつた住まい

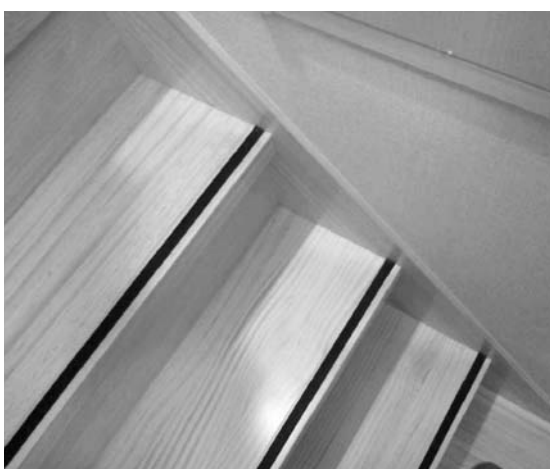
家の「支持力」とは、なんだろうか。一つ目は、できるだけ長く自分の身の回りのことが自分でできるような住まいづくり。二つ目は、出入り口や道路からの出入り口が、必要に応じて、必ずしも玄関である必要はないが、どこか一カ所でも車いすで入れられる出入口を設けておきたい。外出しにくい家にこもりがちになり、心身の衰えが加速する。

二つ目はトイレ。ドア幅を広げ、外開きにしてあげば、廊下から介助したり、車いすを置いたりすることがある。三つ目は、近所とのつながり。例えば草花を植えて近所の方たちと話をきつかけをつくるか、玄関で立ち話ができるように工夫をすることが大切である。

今から始める新バリアフリー
昨年来、被災地でも多



太陽熱を利用した床暖房で家中の温度を一定に保つバリアフリー事例



階段を見やすくする工夫として黒いスポンジを埋め込んだ例

けるためには、地震や火災に対する備えと、家庭内の事故を防ぐための対応も必要だ。耐震性は、今、家を建てる際に最も重要な課題の一つである。しかし家全体の耐震性を上げようと思うと費用がかさんでしまうため、最低限、寝室だけは耐震性を高めておきたい。ただし、リフォームをする場合でも耐震性能が落ちる場合も考えられるという点だ。例えば、部屋をより広くするために壁を撤去する時は、必ず専門家にチェックを依頼する。

同様に、日常の家庭内事故を予防する対策も必要だ。実は、交通事故による死者は10年には5000人を割っている。一方、住宅内で起こる日常の事故は1万3000人にもものぼっている。特に高齢者の事故は、交通事故死を大きく上回っているのが実情。家庭内で起きる事故については、家のつくり方によって予防できることが多い。一例を挙げよう。家庭内で起こる事故の中で最も多いのは、浴室での溺死だが、その主な原因として温度差が指摘されている。浴室に暖房を入れて温度調整をできるようにしておけば、リスクを減らすことができる。また、段差をできる限りなくすことで、転倒を減らすこともできる。階段からの転落事故を防止するためには形状、手すり、照明などと共に段を見やすくする工夫も大切である。高齢になってからのけがは寝たきりや認知症の引き金になりかねない。

住宅産業

AsahiKASEI

旭化成の住まい

2階建プラスアルファの空間で家族の絆を深める都市型住宅

ヘーベルハウス
～スカイコテージのある家～ 天空こども城



旭化成ホームズでは、半世紀を超えて高い満足を持続し、愛着をもって住み続けていただける「ロングライフ住宅の実現」を目指しています。高いレベルの安心と快適を守り続ける「ロングライフシェルター」、現在の住環境への配慮とともに将来的な生活の変化にも柔軟に対応する「ロングライフ設計」、ロングライフプログラムに基く60年点検システムをはじめとする「ロングライフサポート」により、ロングライフ住宅を実現します。

旭化成ホームズ株式会社

〒160-8345
東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル
TEL 03-3344-7115
http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/

40
HEBEL HAUS
40th ANNIVERSARY

船や飛行機ができるなら、
建築だって、
工業化できるはずだ。

1955年、

大和ハウス工業株式会社は誕生しました。

建築の工業化の夢を描き、

社名には「工業」の文字。

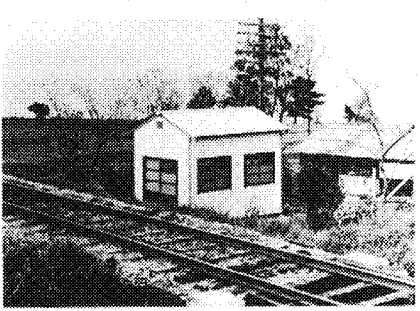
創業当時の商品はこのパイプハウス。

職人に頼る木材建築が中心だった日本に、

部品を工場で大産生し、

現場では主に組み立てるだけ、

という建築の工業化が始まった瞬間でした。



大和ハウス工業株式会社

パイプハウス

人・街・暮らしを建築で支える。

Daiwa House
大和ハウスグループ